



くにびき通信

2026年度 第5号

(8月28日～9月7日)

大田市山村留学センター 三瓶こだま学園

はじめに

8月下旬、学園生がセンターに戻ってきたと同時に、東京農業大学の学生6名と教授1名がセンターにやってきました。驚いたことに、その学生の中の1名は、既に面識がある人でした。育てる会が関わる山村留学施設の一つ、長野県の大岡ひじり学園の修園生で、中学卒業後はしまね留学をし、大田市山村留学センターの短期活動のボランティアや、収穫祭のお手伝いに来てくれていました。その人が、またこのセンターと関わることになるという偶然に、目には見えないけれど縁で繋がっていること、また、たくさんの人との関りが、この山村留学事業をより良いものにしていていることを感じました。

北三瓶で短期の山村留学が始まって31年（長期の山村留学は23年目）。相当な数の関係人口と、その方々のセンターへの想いを大切に、これからも精進したいと思います。

大田市山村留学センター
指導員 稲井 祐介

活動カレンダー

8月28日(金) 学園生帰園

東京農大交流(～31日)

29日(土) 畑作業(草取り、作物撤収)

30日(日) 上立石納涼会

31日(月) 始業式

帰園後:畑作業

(土づくり、じゃがいも掘り)

9月1日(火) 夜:神楽練習

4日(金) 夜:太鼓練習

5日(土) AM:カヤック(PTA 共催)

PM:畑作業

(畝立て、秋野菜植え付け)

6日(日) 個人体験活動①

7日(月) 農家入り

帰園

8/28（金） 雨



長くも短い夏休みが明け、「帰りましたー！」と元気な声とともに、学園生たちがセンターへ帰ってきました。公共交通機関を利用したり、保護者の方に送っていただいたりと帰園の方法はさまざまでしたが、夕食前には8名が集合。残る1名も30日に帰園する予定です。

センターに到着した学園生たちは、まず荷物の片付けに大忙し。しかし、夏休みの思い出話に花が咲き、手が止まってしまうこともしばしば…。それが一段落すると、久しぶりに自分の畑の様子を確認しに行く子、友

達と遊ぶ子、指導員と小豆の収穫をする子など、それぞれ思い思いに過ごしていました。久しぶりに仲間が集まり、センターにもいつもの賑やかさが戻ってきました。

また、この日は東京農業大学の先生と学生の皆さんも来園されました。山村留学の魅力化をテーマに大田市との共同研究に取り組むなかで、実際の山村留学の様子を知るため、31日の午前中まで学園生たちと活動を共にされます。

畑作業（草取り、作物撤収）

8/29（土） 曇り

夏休み明け、一番に待っている大仕事が畑の整備です。久しぶりに畑へ行ってみると、学園生たちを待ち受けていたのは、一面草ぼうぼうになった畑でした。この日は土が湿っており、天気も不安定だったため、予定していたじゃがいも掘りは断念。草むしり班と作物撤収班に分かれて作業を始めました。作物撤収班は、ナスやピーマン、ミニトマト、落花生、人参、唐辛子、さつまいもを残し、それ以外の作物を片付けていきます。

夏休みが明けたとはいえ、まだまだ暑さの厳しい時期。こまめに水分補給をしながら作業を進め、塩分チャージも一人2個ずつ配りました。実はこの塩分チャージ、子どもたちにとってちょっとした楽しみでもあるのです。

最初は「やばいよこれー。ほんとに終わるの？」と不安そうにしていた学園生でしたが、東京農大の皆さんと力を合わせて一生懸命作業したことで、荒れ放題だった畑はみるみるうちにすっきり！見違えるほどきれいになった畑を前に、達成感に包まれました。全体の作業を終えた後は、『マイ畑』を整理したり、育った作物を収穫したりと、お昼ご飯までそれぞれ思い思いに畑作業に取り組みました。



上立石納涼会

8/30(日) 曇り時々雨



この日は、センターが属する上立石自治会の納涼会。学園生たちが毎年とても楽しみにしているイベントです。それもそのはず、BBQにかき氷、ビンゴ大会、スイカ割りと、ワクワクする催しが目白押し。

納涼会に向けて、子どもたちは地域の方々と一緒に前日から準備を進めてきました。テントや椅子を運び出したり、テーブルを作ったりと

大忙し。当日もテントの組み立てや火起こし、飲み物の準備など、それぞれが仕事を見つけて意欲的に取り組みました。



準備が整い、いよいよBBQが始まると、

「うーまー！」とお肉を頬張る子どもたちの顔には満面の笑みが。自分たちで食べるだけでなく、お肉を焼いて地域の方に配ったり、焼きそばを作ったりと大活躍でした。稲井指導員お手製のかき氷も大人気。暑い中で食べる冷たいかき氷を、みんな嬉しそうに味わっていました。東京農大の皆さんも加わり、食事や催しを楽しみながら、地域の方々とゆっくり交流することができました。



夕方、地域の方々を見送った後は、毎年恒例の水風船合戦！あちらこちらで水風船が飛び交い、最後にはみんなびしょ濡れになるまで思い切り楽しみました。

楽しかった夏休みも、この日でおしまい。翌日からはいよいよ学校です。たくさん笑って、食べて、地域の方々と交流して——夏休みを締めくくる、楽しい一日となりました。



始業式

8/31(月) AM:晴れ

楽しかった夏休みも明け、いよいよ2学期が始まります。久しぶりの学校にワクワクする子もいれば、宿題のことが少し気がかりな子も。それぞれの思いを胸に、元気に学校へ向かいました。東京農大の皆さんも一緒に歩いて登校、始業式にも参加された後、東京に戻られました。

この日は早目の下校だったため、下校後はテント片付け班と畑作業班に分かれて活動しました。畑作業班は、29日にできなかったじゃがいも掘りに挑戦！今回収穫したのは「とうや」です。土の中から次々とじゃがいもを掘り出していきました。収穫後は、秋野菜の栽培に向けた畑づくりです。堆肥と石灰をまき、みんなで畑を耕しました。テントの片付けを終えたメンバーも途中から加わり、力を合わせて作業を進めました。

そして、頑張って働いた後には嬉しいお楽しみが！収穫したばかりのじゃがいもを使って、女の子3人がポテトチップスを作りました。揚げたてのポテトチップスを学園生みんなで囲み、楽しいおやつタイムに。学校も学園生活も再スタート。夏休み気分から少しずつ切り替えながら、にぎやかな新学期の始まりとなりました。

カヤック（PTA 共催）

9/5（土） AM：晴れ



この日はPTA共催活動として、地元生と一緒にカヤックを楽しみました。学園生の半分ほどが初めての体験ということもあり、活動前からみんな楽しみにしている様子。当日は心配していた雨も降らず、無事にカヤックができることを喜んでいました。

カヌーの里おおちに到着すると、まずは指導してくださる先生にご挨拶。ライフジャケットを身につけ、パドルの持ち方や漕ぎ方について説明を聞きました。みんな真剣な表情で話を聞き、陸上でしっかりと練習してから、い

よいよ川辺へ。カヤックへの乗り方を教わると、説明を思い出しながら恐る恐る乗り込んでいきました。

いざ漕ぎ始めると、思うように進まず慌てたり、行きたい方向とは全く違うところへ進んでしまったりする子も。それでも、先生に教えてもらいながら何度も練習するうちに、少しずつコツをつかんでいきました。

慣れてきたところで、約1キロ下流へ。途中ではカヤックを降りて、川遊びも楽しみました。水はだいぶ冷たくなっていましたが、川流れを楽しんだり、思い切って飛び込んだりする子もいました。また、魚やヤゴ、エビなどを見つけ、川の生き物探しを楽しむ姿も見られました。

帰り道は上流に向かって漕ぐため、行きよりもひと苦勞。それでも最後まで一生懸命漕ぎ進め、時にはパドルで水を掛け合いながら楽しむ余裕も見られました。そして、全員無事にゴール！最後はみんなで記念撮影をし、カヤック活動を締めくくりました。初めはおっかなびっくりだった子どもたちも、終わる頃にはすっかりカヤックに慣れ、地元生と一緒に楽しい時間を過ごすことができました。

畑作業（畝立て、秋野菜植え付け）

9/5（土） PM：晴れ



この日は、秋野菜の植え付けに向けて畝立てを行いました。今回作る畝は全部で8畝。春に経験したやり方を思い出しながら、一人で挑戦したい子は一人で、協力して進めたい子はペアを組んで、それぞれ作業に取り掛かりました。さすが学園生。声を掛け合いながら、あっという間に畝が出来上がっていきます。中でも継続生は手慣れた様子で作業を進め、早くも2つ目の畝に取り掛かる子の姿もありました。

畝立てを終えて手の空いた子は、ポット苗作りや種まきへ。センターの畑ではこの秋、大根、白菜、広島菜、水菜、チンゲン菜、ビーツを育てます。そして今年は、新たに「越冬野菜」にも挑戦。これまでは春に畑を空の状態にするため、冬を越して育てる野菜は植えていませんでしたが、今年から試してみることにしました。今回植えたのは、玉ねぎとらっきょう。寒い冬を越え、春にどんな姿を見せてくれるのか、今から楽しみです。

センターの畑での作業が終わると、今度はマイ畑へ。秋野菜に挑戦するのは6名です。さっそくポット苗を作ったり、土づくりを始めたりと、それぞれの畑で動き始めていました。春からの経験を生かしながら、今度はどんな畑になっていくのでしょうか。秋の実りが楽しみです。

個人体験活動①

9/6(日) 雨



さて、いよいよ今年度の個人体験活動が始まりました。個人体験活動は、育てる会が大切にしている活動の一つです。「ここでしかできない体験」「時間をかけて取り組める体験」を軸に、子どもたち自身がテーマを決め、考え、調べ、計画を立てながら活動を進めていきます。そして、その成果を11月の収穫祭で発表します。

何に取り組もうか、春から頭を悩ませる子もいるほど、テーマ決めから子どもたちの個性が表れるこの活動。今回は初めての活動日でしたが、子どもたちは事前に担当指導員と打ち合わせを重ね、「この日は何をするのか」をしっかりと計画したうえで、それぞれの活動に取り掛かっていました。

日々さまざまな活動があるセンターでは、個人体験にじっくり取り組める日は限られています。だからこそ、一回一回の活動を大切に、先を見通して計画的に進めていくことも大切な経験です。11月の収穫祭まで、あと約2か月。それぞれがやり残しなく、「これをやってよかった！」と思える個人体験になるよう、試行錯誤しながら取り組んでほしいと思います。どんな体験が生まれ、どんな発表につながっていくのか、今から楽しみです。

収穫祭にむけて

学園で毎年行っている大きな行事、「収穫祭」。今年も本番に向けた準備が、いよいよ本格的に始まりました。収穫祭には、育ててきた作物への感謝、日頃からお世話になっている方々への感謝、そして成長した自分自身への喜びや、仲間と力を合わせることの大切さなど、さまざまな意味が込められています。子どもたちはさっそく、農事暦や感謝の式の係を決めたり、案内文や表紙などの書き物を分担したりと、それぞれの役割を決めて準備をスタート。個人体験活動のテーマもそれぞれ決まり、11月の発表に向けて少しずつ動き始めています。さらに、全体発表の内容決めや太鼓の練習など、これからやることは目白押しです。普段の学校生活やセンターでの活動と並行しながら準備を進めていくため、忙しい日々が続きます。それでも、みんなで一つのものを作り上げた先には、きっと大きな達成感が待っていることでしょう。

本番まであと少し。子どもたち一人ひとりが自分の役割に向き合い、仲間と力を合わせながら、今年ならではの収穫祭を作り上げていけるよう、学園生、指導員・職員一同、力を合わせて駆け抜けていきます。





日常のひとこま

収穫祭のご案内

学園生の半年間の活動の報告とお世話になった皆さまへの感謝の意を込めて、三瓶こだま学園恒例の「収穫祭」を下記の日程で開催します。

学園生一同、皆さまのお越しをお待ちしています！

〈日 程〉 11月14日（土） （午前）農事歴発表・感謝の式（案内者のみ）
（午後）個人体験発表、全体発表（劇・太鼓等）
11月15日（日） （午前）模擬店、バザー、ビンゴ大会ほか

〈場 所〉 山村留学センター



ぜひお越しください！

「くにびき通信」2026年度 第5号



大田市
山村留学センター
Sanbe Kodama Academy



大田市山村留学センター
公式ホームページ



バックナンバー

〒694-0002 島根県大田市山口町山口1694

TEL: 0854-86-0700 FAX: 0854-86-0701 Email: o-sanryu@city.oda.lg.jp